

第2回

地域包括支援センター展勝地

圏域内介護支援専門員研修会報告

平成30年6月14日10:00～

地域密着型特別養護老人ホーム浮牛の里 交流ホール

参加事業所

- ① やちだもの家北上ケアプランセンター
- ② 介護相談センターふたご
- ③ エスカール在宅介護支援センター
- ④ 居宅介護支援事業所浮牛の里
- ⑤ 八天の里在宅介護支援センター
- ⑥ グループホームやちだもの家北上
- ⑦ グループホームくちない
- ⑧ グループホームさらき
- ⑨ 看護小規模多機能居宅介護きずなの森
- ⑩ 地域密着型特別養護老人ホーム浮牛の里
- ⑪ 特別養護老人ホーム八天の里

本日のメニュー

「独居高齢者を地域で支えるには」

①支えるための地域の社会資源各自発表

- やちだもの家→施設入居者脱園の際に、地域の連絡網が利用され、地域の中で顔の見える関係ができています。
- 介護相談センターふたご→地域の傾聴ボランティア、びわの会、福祉協力員
- 居宅支援事業所浮牛の里→NPO法人くちない（移送、草取り、雪かき、買い物）
- 八天の里在宅介護支援センター→おたすけライフさらき、更木芋や（冬期間は配達もする）、郵便局、更木の里、黒岩お茶っこ会、農協、展勝地もち・ヤクルト見守り、二子歯科、京美容室、沿岸から魚や
- グループホームくちない→ともしび号（移動図書館）の存在を楽しみにしている。そこに集まってきた方で話をしている。
- グループホームさらき→交流センター長、民生委員、二子駐在
- 看護小規模多機能居宅介護きずなの森→あぐり夢くちない、ふれデイ
- エスカール在宅介護支援センター→予防教室、保育園・小学生の慰問、民生委員による除雪、立花茶屋産直（配達もする）

グループワーク

「自分たちがどのように地域とかかわっていけるか」

※自分たちも地域の社会資源です。施設として、居宅支援事業所として、介護支援専門員として

※司会（ファシリテーション）は、主任介護支援専門員の方、不在のところは管理者の方

①グループ

- ・ 地域の高齢者が元気に働いて作った農作物を売りに出す、誰かにあげる方法
→ネットに詳しい引きこもりがちな方をうまく活用できれば。働き手やボランティアになれるかも。※かかわりをどうつくるか。年齢によってもアプローチの仕方が違う。
- ・ 野菜をつくる喜び、食べる喜び（生きがいづくり）→身体のメンテナンス、予防もする。
- ・ 地域の方向けに事業所の一角を貸し出す。→事業所と地域の方交流できる。
- ・ 移送サービス利用しにくい→仕組みの見直し。（社協：予約が取れない。乗り合いタクシー使いづらい、わからない。

グループワーク

②グループ

- ・地域のシニア世代に合唱サークル指導→慰問に繋がっている。
- ・歌声カフェの開催（2か月に1回）
- ・サークルに場所（グループホーム）の提供→合間に認知症の勉強会開催良いかも
- ・畑の作業を一緒にできたら→施設の畑開放
- ・浮牛の里交流ホールを提供。
- ・利用者と地域の子供たちとのふれあいをつなぐ（地域の運動会に参加）
- ・浮牛の里夏まつりには地域の方も参加。
- ・何かあったらすぐ相談してみようかと思ってもらえるように自分たちでも広報活動をする。
- ・地域の方に認知症の知識を広く理解していただく。（徘徊している方の見守りにつながる）
- ・ふれデイへの参加。
- ・圏域内事業所同志の情報交換。

グループワーク

③グループ

- ・自らふれデイに参加し、民生委員と関わり、地域の情報交換を行う。（以前はふれデイで地域の皆さんを知ることができた。今はなくなり必要性を感じる）
→相談しやすくなる関係性をつくるきっかけになる。
- ・ふれあい食事会主催し、その中で介護保険の話などする。（介護保険について知らない方が多い）
- ・認知症に対する話（知識・情報）ができれば。→安心感につながる。
- ・地域密着型施設として→自動販売機利用していただくなど入りやすいきっかけ、ベンチを置いたり雰囲気づくり。
- ・施設に対して昔のイメージがある。→施設開放をし、見学していただく。
- ・訪問先で近所に挨拶だけでも、近づきやすい雰囲気に。地域全体が見守る意識。

グループワーク

④グループ

- ・ふれデイに出向いてグループホームのパンフレットを渡す。
- ・グループホームで地域のごみ拾いに参加。
- ・施設に地域の方を呼び込みたい→バイキング開催など、交流や相談の場に、交流センター、駐在所、民生委員などに声をかけている。これからは家族なども呼びたい（地域貢献、情報発信。お金は頂かず、今後さらに広めていきたい）
- ・ふれデイに参加したい。以前はふれデイに出向き予備軍を発見できた。地域とのつながりも少なくなり、民生委員も知らない人がいる。
- ・利用者様宅訪問している際に、たまたま相談に乗ったことがある。気軽に話せる場があれば良い。
- ・入所相談の際に、まだ、居宅支援事業所に行くまででもないが、介護相談をされることもある。
- ・自分たち（介護支援専門員）にも無理のない範囲で相談を受ける場があれば。
- ・居宅介護支援事業所から情報発信すること少ない。
- ・口内ではネットを組まず、近所の方が毎日のように見てくれるが、あまり良い気持ちがない人もいる。ネットワークづくりに協力できるのではないか。

研修の様子

